

第1回高齢運転者標識の様式に関する検討委員会議事概要

1 日時

平成21年1月30日（金）午後3時～午後4時30分

2 場所

警察総合庁舎第11会議室

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

浅葉委員、駒場委員、鈴木委員、中谷委員、山村委員

(2) 警察庁出席者

東川交通局長、倉田交通企画課長、池田交通安全企画官

4 議事概要

(1) 警察庁説明

警察庁から、委員会の開催趣旨、高齢運転者標識の制定経緯、現行の高齢運転者標識制度、高齢運転者の支援に関する検討委員会報告書、高齢運転者標識の理念とモチーフ等について、資料に沿って説明。

(2) 自由討議

委員から以下の意見が述べられた。

形よりも色に不満が多いのではないか。

日本はデザイナー大国であるので、トップレベルのデザイナーからデザインを募集するという案もあるのではないか。

高齢者が付けたくくなるようなデザイン、制度であるべき。

高齢運転者の場合には特徴のある運転をするので、周囲の運転者に、あの車は高齢者が運転しているということを示すマークは必要。特に高齢者になると多少コミュニケーション能力が低下してくるので、車の外側に高齢運転者であるというマークを貼って、コミュニケーションの手段とすることは大事である。

高齢運転者標識を付けたくないというのは、デザインの影響もあると思うが、今の社会が高齢者に対して優しくないために、周囲の人間に自分が高齢者であることを示したくないという気持ちの表れではないか。どんないいマークを考えても、社会が今のように高齢者を弱者と見ているときには、高齢者はマークを付けたがらないのではないか。デザイン変更も必要であることは承知の上だが、社会の考え方を変化させることも必要。

もし新しいマークを作るとすると、社会に混乱をきたしてしまうのではな

いか。

デザインを変更するかしないかを先に決めてしまうより、現在のもみじマークを含めて4つぐらいのデザインを出して、どのマークが適切か国民の判断を仰ぐというやり方がいい。

努力義務としたときに、一番心配なことは、マークを付けなくてもいいと考えられてしまうこと。デザイン変更が着用率向上のきっかけになればいい。

なんとなく色を決めるということではなく、科学的な見地から、これ以外はあり得ないという色を決めることができればいいのだが。

(3) 現行の高齢運転者標識について国民の意見をきくことについて

現行の高齢運転者標識について、国民の意見を広くきく方法等について、次回検討委員会で議論することとなった。